

# [解答例]

国語〔前期A方式(1/29)〕

| 設問 |    | 解答例 |   |
|----|----|-----|---|
| 一  | 問一 | ①   | 5 |
|    |    | ②   | 4 |
|    |    | ③   | 3 |
|    |    | ④   | 2 |
|    |    | ⑤   | 5 |
|    |    | ⑥   | 3 |
|    | 問二 | ⑦   | 6 |
|    |    | ⑧   | 7 |
|    |    | ⑨   | 1 |
|    |    | ⑩   | 5 |
|    |    | ⑪   | 2 |
|    |    | ⑫   | 4 |
|    | 問三 | ⑬   | 3 |
|    |    | ⑭   | 3 |
|    | 問四 | ⑮   | 3 |
|    |    | ⑯   | 1 |
|    |    | ⑰   | 4 |
|    |    | ⑱   | 2 |
|    |    | ⑲   | 5 |
|    | 問五 | ⑳   | 3 |
|    | 問六 | ㉑   | 4 |
|    | 問七 | ㉒   | 1 |
|    | 問八 | ㉓   | 4 |
| 二  | 問一 | ㉔   | 4 |
|    |    | ㉕   | 3 |
|    |    | ㉖   | 1 |
|    |    | ㉗   | 4 |
|    |    | ㉘   | 5 |
|    | 問二 | ㉙   | 2 |
|    |    | ㉚   | 1 |
|    | 問三 | ㉛   | 3 |
|    |    | ㉜   | 3 |
|    |    | ㉝   | 1 |
|    |    | ㉞   | 5 |
|    | 問四 | ㉟   | 2 |
|    | 問五 | ㊱   | 5 |
|    | 問六 | ㊲   | 2 |
|    |    | ㊳   | 1 |
| ㊴  |    | 4   |   |
| 問七 | ㊵  | 4   |   |
| 問八 | ㊶  | 4   |   |
| 問九 | ㊷  | 4   |   |

国語〔前期A方式(1/30)〕

| 設問 |    | 解答例 |   |
|----|----|-----|---|
| 一  | 問一 | ①   | 3 |
|    |    | ②   | 1 |
|    |    | ③   | 4 |
|    |    | ④   | 3 |
|    |    | ⑤   | 4 |
|    |    | ⑥   | 5 |
|    | 問二 | ⑦   | 2 |
|    |    | ⑧   | 5 |
|    |    | ⑨   | 4 |
|    |    | ⑩   | 1 |
|    |    | ⑪   | 3 |
|    |    | ⑫   | 4 |
|    | 問三 | ⑬   | 2 |
|    |    | ⑭   | 1 |
|    |    | ⑮   | 3 |
|    |    | ⑯   | 5 |
|    | 問四 | ⑰   | 1 |
|    |    | ⑱   | 4 |
|    | 問五 | ⑲   | 5 |
|    | 問六 | ⑳   | 7 |
| ㉑  |    | 3   |   |
| 問七 | ㉒  | 1   |   |
| 問八 | ㉓  | 2   |   |
| 問九 | ㉔  | 3   |   |
| 問十 | ㉕  | 2   |   |
| 二  | 問一 | ㉖   | 2 |
|    |    | ㉗   | 4 |
|    |    | ㉘   | 4 |
|    |    | ㉙   | 5 |
|    |    | ㉚   | 3 |
|    |    | ㉛   | 5 |
|    | 問二 | ㉜   | 2 |
|    | 問三 | ㉝   | 4 |
|    | 問四 | ㉞   | 2 |
|    | 問五 | ㉟   | 2 |
|    | 問六 | ㊱   | 5 |
| ㊲  |    | 2   |   |
| ㊳  |    | 2   |   |
| ㊴  |    | 1   |   |
| ㊵  |    | 1   |   |
| 問九 | ㊶  | 5   |   |

国語〔前期B方式(1/31)〕

| 設問 |    | 解答例 |   |
|----|----|-----|---|
| I  | 問一 | ①   | 4 |
|    |    | ②   | 1 |
|    |    | ③   | 3 |
|    |    | ④   | 5 |
|    |    | ⑤   | 5 |
|    |    | ⑥   | 2 |
|    | 問二 | ⑦   | 1 |
|    |    | ⑧   | 5 |
|    | 問三 | ⑨   | 4 |
|    |    | ⑩   | 4 |
|    |    | ⑪   | 1 |
|    |    | ⑫   | 3 |
|    |    | ⑬   | 1 |
|    | 問四 | ⑭   | 6 |
|    |    | ⑮   | 5 |
|    |    | ⑯   | 4 |
|    |    | ⑰   | 3 |
|    |    | ⑱   | 1 |
|    | 問五 | ⑲   | 5 |
|    |    | ㉑   | 4 |
|    | 問六 | ㉒   | 5 |
|    | 問七 | ㉓   | 1 |
|    | 問八 | ㉔   | 3 |
| II | 問一 | ①   | 4 |
|    |    | ②   | 3 |
|    |    | ③   | 4 |
|    |    | ④   | 2 |
|    |    | ⑤   | 5 |
|    | 問二 | ⑥   | 4 |
|    |    | ⑦   | 3 |
|    |    | ⑧   | 4 |
|    | 問三 | ⑨   | 2 |
|    |    | ⑩   | 5 |
|    |    | ⑪   | 1 |
|    |    | ⑫   | 3 |
|    |    | ⑬   | 5 |
|    | 問四 | ⑭   | 1 |
|    |    | ⑮   | 4 |
|    |    | ⑯   | 2 |
|    |    | ⑰   | 6 |
| ⑱  |    | 4   |   |
| ⑲  |    | 2   |   |
| 問五 | ⑲  | 4   |   |
|    | ㉑  | 2   |   |
|    | ㉒  | 2   |   |
|    | ㉓  | 4   |   |
|    | ㉔  | 4   |   |
| 問九 | ㉕  | 3   |   |

| 設問  |    | 解答例 |   |
|-----|----|-----|---|
| III | 問一 | ①   | 5 |
|     |    | ②   | 4 |
|     |    | ③   | 1 |
|     | 問二 | ④   | 3 |
|     | 問三 | ⑤   | 4 |
|     |    | ⑥   | 3 |
|     |    | ⑦   | 3 |
|     |    | ⑧   | 4 |
|     |    | ⑨   | 4 |
|     | 問四 | ⑩   | 4 |
|     | 問五 | ⑪   | 1 |
|     | 問六 | ⑫   | 4 |
| 問七  | ⑬  | 4   |   |
| 問八  | ⑭  | 5   |   |
| 問九  | ⑮  | 2   |   |
| 問十  | ⑯  | 4   |   |
| 問十一 | ⑰  | 3   |   |
| 問十二 | ⑱  | 1   |   |

国語〔後期(3/8)〕

| 設問  |    | 解答例 |
|-----|----|-----|
| 一   | 問一 | ① 5 |
|     |    | ② 2 |
|     |    | ③ 5 |
|     |    | ④ 1 |
|     |    | ⑤ 1 |
|     |    | ⑥ 5 |
|     | 問二 | ⑦ 6 |
|     |    | ⑧ 2 |
|     |    | ⑨ 1 |
|     |    | ⑩ 5 |
|     |    | ⑪ 3 |
|     | 問三 | ⑫ 3 |
|     |    | ⑬ 4 |
|     |    | ⑭ 2 |
|     |    | ⑮ 3 |
|     | 問四 | ⑯ 1 |
|     |    | ⑰ 4 |
|     |    | ⑱ 5 |
|     | 問五 | ⑲ 1 |
|     | 問六 | ⑲ 5 |
|     | 問七 | ⑲ 2 |
|     | 問八 | ⑲ 3 |
|     | 二  | 問一  |
| ⑲ 2 |    |     |
| ⑲ 5 |    |     |
| ⑲ 8 |    |     |
| ⑲ 7 |    |     |
| 問二  |    | ⑲ 2 |
|     |    | ⑲ 5 |
|     |    | ⑲ 3 |
|     |    | ⑲ 1 |
| 問三  |    | ⑲ 4 |
|     |    | ⑲ 4 |
|     |    | ⑲ 4 |
| 問四  |    | ⑲ 6 |
|     |    | ⑲ 4 |
|     |    | ⑲ 4 |
|     |    | ⑲ 2 |
| 問五  |    | ⑲ 1 |
|     |    | ⑲ 4 |
|     |    | ⑲ 4 |
| 問六  |    | ⑲ 2 |
| 問七  |    | ⑲ 1 |
| 問八  |    | ⑲ 5 |
| 問九  |    | ⑲ 3 |

問六 傍線部の内容を問う問題。傍線部の「その概念」とは「社会」という概念であり、「社会」という概念が「本来もっていた意味」については、次の段落で「欧米の社会」という言葉は本来個人がつくる社会を意味しており、個人が前提であった」と書かれている。また、同段落で「しかしわが国では個人という概念は訳語としてできたものの、その内容は欧米の個人とは似ても似つかないものであった」「欧米の意味での個人が生まれていないのに社会という言葉が通用するようになってから、少なくとも文章のうえであたかも欧米流の社会があるかのような幻想が生まれたのである」とあり、これが傍線部の「わが国の実状とこの間の乖離が無視される傾向」に相当する。よって、これらの内容を述べた選択肢④が正解。①は「社会」という言葉ではなく世間という言葉が無意識に使い続けたことは、「その概念」社会という概念が「本来もっていた意味」と「わが国の実状とこの間の乖離」を無視することには当たらないので誤り。②は「社会」という概念に全く言及していないので誤り。③は「欧米流の社会をいたずらに模倣しようとする傾向が出てきた」が誤り。⑤は「学者や新聞人が扇動して」が誤り。

問七 傍線部の内容を問う問題。傍線部の内容は、その直後で「こういう状態だからわが国は遅れている」といつてみたところで何もいっていないに等しいのである」と言い換えられている。また、傍線部の後に、「このように考えてくると、問題の一つは、わが国においては個人はどこまで自分の行動の責任をとる必要があるのかという問題である」「世間の中で個人はどのような位置をもっているのか」とい問いでもある」とあり、「社会」ではなく「世間」という言葉を用いながら日本の実状について問いを立てている。これらを述べた選択肢①が正解。②は、本文にそのような記述はないので誤り。③は「欧米諸国に対するわが国の遅れを取り戻すために」が誤り。④は「先進的な欧米諸国を見習い」が誤り。⑤は「社会」という言葉が流通する以前の」という限定が誤り。

問八 筆者の主張を問う問題。①は「意味がない」が誤り。②・③は、本文にそのような記述はないので誤り。④は、第八段落に「こういう状態だからわが国は遅れている」といつてみたところで何もいっていないに等しいのである」とあり、第五段落で日本と欧米における「社会」の違いが、最終段落で個人が「自己を形成するあり方の違いがそれぞれ述べられているので、筆者の主張に合致する。⑤は「明確に言語化できないものを対象として論じても意味がない」が誤り。第二段落で「非言語系の知」を顕在化する必要があることが述べられている。よって、選択肢④が正解。

問六 傍線部の解釈を問う問題。イ「はや」「すぐに」「早く」という意味。「まうで」「まうづ」の連用形で、「参る」という意味の謙譲語。「たまひね」は尊敬の意味を表す補助動詞「たまふ」の連用形に完了の助動詞「ぬ」の命令形がついたもの。以上を踏まえると、選択肢②が正解。オ「かくて」は「こうして」という意味。「ものし」は動詞「ものす」の連用形であり、「たまへる」は尊敬の意味を表す補助動詞「たまふ」の已然形(命令形)に完了の助動詞「り」の連体形がついたもの。また、文末の「こと」は「ことよ」と詠嘆の意味を添える言葉。「ものす」は様々な動作や状態を婉曲的に表現する言葉なので、文脈に即して意味を判断する。傍線部は「中将(夕霧)の祖母である(宮(大宮))の、「中将」に対する発言であり、「たまへる」という尊敬表現から、「ものす」の主語は「中将」と判断できる。「中将」は、強風を「若き子のやうに怖ぢたまふ(幼い子どものやうに怖がりなさっている)」「宮」を心配し、その邸宅を訪問している。よって、選択肢①が正解。キ「あるまじき」は動詞「あり」の連体形に助動詞「まじ」の連体形がついたもの。また、「もこそ添へ」の「もこそ」は、「二つの係助詞」も「こそ」が合わさったもので、「し」なら困る」という懸念する心情を表す。「中将」が「心にかけて恋しと思ふ人の御事はさしおかれて、ありつる御面影の忘れぬ(恋しく思っていた幼馴染の雲居雁のことは差し置かれて、紫の上の美しい容貌が忘れられない)」「心境、つまり、自分が恋していた幼馴染よりも光源氏の妻の方に心を奪われ

ている状態であることから、ここでの「まじ」は、「あつてはならない」という打消の当然の意味が妥当である。よって、選択肢④が正解。

問七 傍線部の理由を読み取る問題。傍線部の直前に、「この朝臣さぶらへばと(この朝臣がおそばに控えておればと)とあるので、この部分が傍線部の理由となる。傍線部の譲りては「他人に」任せて」という意味であり、傍線部の前で、「中将」が「心苦しさに、まかではべりなむ(大宮が気の毒ですので、おいとまさせていただきます)」と言ったのに対し、光源氏が「はやまうでたまひね(急いで参上なさい)」と言っていることから、光源氏は「中将」に「宮」の見舞いを任せていることがわかる。「この朝臣」は「中将」、すなわち夕霧であり、光源氏は、「見舞いは夕霧が務める」ので、「自分は行かなくても」よいと思ったことが推測できる。よって、選択肢④が正解。

問八 傍線部の内容を読み取る問題。傍線部は「夕霧は三条の宮と六条院に参上して、祖母君や父君に謁見なさらない日はない」という意味であり、夕霧は毎日大宮や光源氏と会っているということであるので、選択肢④が正解。①は「求められている」が誤り。②は「すばらしい若君だと毎度思われている」が誤り。③は本文の「まづこの院に参り、宮よりぞ出でたまひければ(まづ六条院に参上し、三条の宮より出仕なさったので)」と合致しないので誤り。⑤は「命じられた」と誤り。

問九 傍線部の内容を読み取る問題。傍線部は「かえつてあまり親しくしていなかった」という意味であり「宮」が「中将」を「頼もし人に思したる(頼りになる人)と思つていらつしやる」一方で、「内の大殿」と「宮」が、親子であるにもかかわらず疎遠な関係であったことを述べているので、選択肢④が正解。①は「昔から相間にこじれた関係」が、②は「内大臣と夕霧は親子でありながら」が、③は「内大臣は大宮から見ても愚かしいところがあり」が、それぞれ誤り。⑤は本文の「いまも大方のおぼえの薄らぎたまふことはなけれど(今も世間一般から受ける声望が薄らいでいらつしやることはないけれども)」と合致しないので誤り。

国語(前期A方式 1/30)

問五 空所補充問題。空所Xの直前に「すなわち」とあることから、その前の「自分の自覚した価値カテゴリーにしたがって見ることをやめる」を言い換えた表現が空所に入るとわかる。また、空所Xの直後の「とき、それは虚栄心に変質する」という部分から、空所には「虚栄心」に「変質する」とときの説明が入ると推測できる。そして、「虚栄心」については、第一段落で「名譽心が自らの固有の規準を捨てて完全に他人の規準に隷属するとき」「虚栄心と呼ばれる」と述べられている。よって、選択肢⑤が正解。問六 空所補充問題。甲 空所の前に、「名譽心の強い人は、それがいつしか虚栄心のほうへ傾くことに気づき」「名譽心へ戻る、しかしふたたび虚栄心はうなり声を上げて名譽心を呑み込む……」という果てしない運動のうちにもだえ苦しむ。石川啄木はそんな男であったろう」とあるので、名譽心と虚栄心の狭間で揺れ動き、苦しむ心情を表現した短歌が空所にはふさわしい。よって、選択肢⑦が正解。選択肢⑦は、他者からの誉め言葉を素直に受け止められず、「へつらひ(お世辞)」ととらえてしまうほどに身の程を弁えていることの悲しさを表現した歌である。乙 空所の直前の「この運動は、しらすしらず他人を見る眼にも及んでいく」という一文を踏まえると、空所には、「名譽心」と「虚栄心」の間で揺れ動く啄木自身の心情を、「他人」に投影した歌がふさわしい。よって、「人並の才に過ぎざる(平凡な才能に過ぎない)」「友が不平をもらす様子を哀れんだ、選択肢③が正解。

問八 傍線部について筆者の主張の根拠である。その内容は「カント」の「自他のうちにある「人間性(Menschheit)」を尊敬せよ」という主張であり、それは「人間の動物的側面を含めた理性的存在者としての人間をそのまま尊敬せよ」ということ」であり、「理性的存在者でありかつ動物であるような、きわ

めて居心地の悪い人間存在を尊敬せよということである」と述べられている。よって、この内容に合致する選択肢②が正解。選択肢①は「優越感がかけられない」ことを理由に、「人間存在に敬意を払う必要が生じる」としている点が誤り。選択肢③は「誇りが完全なプラスの価値として語られるべき極限状態である」ことを理由に、「人間性」を尊敬しなければならぬ」としている点が誤り。選択肢④は、「純粋」な誇りを見直すきっかけを重視しなければならぬ」が誤り。選択肢⑤は、本文にそのような記述はないので誤り。

問九 傍線部の内容を問う問題。傍線部の前の段落に、「現代日本では社会的なマイナスの価値を誇る言葉が津々浦々にまで響き渡っている」とある。さらにその前の段落では、日本で「社会的なプラスの価値に基づいて誇ること」に対して「厳しい世間の検閲」があり、「高慢、尊大という非難を回避するのは難しい」と述べられている。そして、「社会的なマイナスの価値を誇る言葉」は、傍線部の後で「人の耳に心地よく響き、誰からも非難どころか幾重もの優しいまなざしに包まれ」ることが述べられている。よって、選択肢③が正解。

問七 傍線部の内容を問う問題。「思ひながらの橋柱」の「ながら」は接続助詞の「ながら」と地名の「長柄」という二つの意味が込められた掛詞となっている。「思ひながら」は「思うままで」という意味で、「ながらの橋柱」については、注2で「古くて壊れたもの」と説明されている。「心の内にて朽ち果てぬべきわざにしもあらじかし」の「朽ち果てぬべき」は動詞「朽ち果つ」の連用形に強意の助動詞「ぬ」の終止形と当然の助動詞「べし」の連体形がついたもので、「朽ち果てぬべきわざ」は「当然朽ち果ててしまはずのこと」という意味。「しもあらじかし」の副助詞「しも」は、後ろに「あらじ」を「ないだろう」という打消表現が続いているので「必ずしも」という意味。したがって傍線部を現代語に訳すと「思っているままで、長柄の橋柱のように、心の中で古くなって朽ち果てていってしまうようなことでもないだろう」となる。よって、選択肢①が正解。

問八 傍線部の理由を問う問題。傍線部は「他の遊びもありません」という意味であるが、では何をして遊んでいたのかというと、傍線部の直前に「書き写し、読み試みるより」とあるので、何かを「書き写し、読む」として遊んでいたことがわかる。さらに文脈を遡ると、「たらちねの親のいさめにて、難遊びの調度にも、ただ歌草紙をのみもて遊び、生ひさきこもれる窓の中にて、これをまなぶよりほかのことなかりしかば（親の言いつけに従って、難遊びの道具としても、ひたすら歌草紙ばかりに興じて、生まれてからずっと深窓にこもって、これを学ぶ以外にすることがなかったのだ）」とあるので、「書き写し、読み試みていたのは「歌草紙」であり、「これをまなぶよりほかのことなかりしかば」が傍線部の理由に当たることがわかる。よって、選択肢①が正解。

問九 傍線部の内容を問う問題。傍線部は「浜辺の砂が数え尽くせぬように、読んで理解することができない箇所が半分以上あります」という意味になる。また、傍線部の前に「その本、あやしき手にて書きにたれば、ただ浦千鳥の跡とのみ見えて（その本は、妙な筆跡で書いてあったので、ただ浜辺にいる千鳥の足跡にばかり見えて）」とあるので、鳥の足跡にしか見えないうような文字で書かれていたために、半分以上読むことができなかったのだということがわかる。よって、選択肢⑤が正解。

## 国語(前期B方式 1/31)

I

問六 傍線部について筆者の考えを読み取る問題。傍線部の直後に「なかりけり」であるところの花や紅葉のおかげでもつているとしか考えようがない」とある。そして、「花ももみちもなかりけり」というのは純粹に言語の魔法であって、現実の風景にはまさに荒涼たる灰色しかないのに、言語は存在しないものの表象にすらやはり存在を前提とするから、この荒涼たるべき歌に、否応なしに絢爛たる花や

紅葉が出現してしまうのである」と述べられている。つまり、花も紅葉も存在しないことを宣言することで、かえって「荒涼たる灰色」の情景の中に「絢爛たる花や紅葉」をイメージさせるといふ「言語の魔法」によって、この歌が「もつている」というのである。よって、選択肢⑤が正解。

問七 傍線部の内容を読み取る問題。傍線部の前に「かかる（このような）」とあることから、その直前で述べている内容をまとめて「言語のイロニイ」と表現していることがわかる。ここでは、花も紅葉も存在しないと詠むことが、かえって「絢爛たる花や紅葉」のある情景を想起させるという、表面的な意味とは反対の皮肉な結果がもたらされる「言語の魔法」について述べられている。よって、選択肢①が正解。問八 傍線部の内容を問う問題。傍線部の次の段落で、「待つ夜ながら」に眺められている「月は「現実の月」のようであり、「帰るさ」に眺められている「月は「空想上観念上仮定上の月」のように思われる」が、実は逆に「帰るさ」に眺められている「月は「現実の月」であり、「待つ夜ながら」に眺められている「月は、「正に目の前に見えてはいるが、ありうべからざる異様な怪奇な月」信じようにも信じてることのできぬ怖ろしい月」であり、「喪失の歴然たる証拠物件として出現している」と述べられている。よって、選択肢③が正解。

II

問六 空所補充問題。空所Xを含む一文は、フロイトの言う「ノイローゼのもたらす『疾病利得』」を説明したものである。また、空所Yを含む段落で、フロイトは「神経症(ノイローゼ)が、自我にとって一種の保護機能をもつことを認めて」おり、「疾病への逃避」は「悪いとは言えない」としている。また、フロイトの「精神分析学入門」の引用部分で、「この逃げ道によって、自我は、疑いもなく苦痛である心的な一大作業から免れることができる」と述べられており、「疑いもなく苦痛である心的な一大作業」とは病気以外の「現実的な苦痛」、「人生のつらさ」のことである。したがって、空所Xには、病気を理由とした現実の物事からの逃避行動を表す表現を入れると文脈に合う。よって、選択肢②が正解。①・③・④は文脈と合わないで誤り。⑤は「勉強や仕事で失敗してしまつた場合」に限定している点が誤り。

問七 脱文補充問題。脱文は、「疾病」が「愛」と同様に「独立の生きもの」として人間をハイジャックし虜にする「いわく言い難い魅力」のあるものであるがゆえに、「治りたくない患者」もいなくなるらない」ということを述べている。したがって、直前で関連する内容が述べられている③か④が解答の候補となるが、③は、直後の「要するに」以下の内容と合わない。よって、選択肢④が正解。

問八 点線部の前提となる考えを読み取る問題。点線部の前に「だからこそ」とあり、その前の段落にはフロイトが「病気という生きものが、いつしか患者という生きものよりも優位に立ち、自らの存続を指すようになる」とことを「警戒」していたとある。また、点線部の段落の冒頭で、「病のもたらす短期的な利益を認めつつも、それが長期化する」とは否定的であることが述べられている。よって、選択肢④が正解。

問九 本文全体の内容を問う問題。①は、「神経症(ノイローゼ)が、自我にとって一種の保護機能をも」ち「健康を第一の価値とする」と、「しばしば」心の逃げ場が失われて、苦悩がいつそひびく」という本文に合致する。②は、「ノイローゼの患者は病気を嘆くにもかかわらず、その解消をときに望まなく」なるが、それは「患者が、病気という「独立の生きもの」にハイジャックされてしまったから」であり、「病気のもつ自己保存の力が患者を圧倒してしまえば、それ以上の好結果は望めない」という本文に合致する。③は、「健康とは大なり小なり「意志の強度」の問題」という本文に合致しない。④は「健康を目に見える形で測量することは困難」であり、「健康だと感じる」ことに嘘は混じらないが、「それだけでは健康であると「知る」ことにはならず、「健康かどうかの決定は、主観や感覚の能力を超えている」という本文に合致する。⑤は、「健康とは制作可能性の限界に位置して」いたが、「現代の医療システムはまさにそのような限界を振り切ろう」とおり、「健康に関わるテクノロジーは、今

や人類をその生の手前で包囲している」という本文に合致する。よって、選択肢③が正解。

問四 傍線部の理由を問う問題。Aの和歌の「花」は「桜の花」、「都」は「京都」、「四方」は「あちらこちら」、「あぐがれて」は「ふらふらと出かけて」という意味であり、「桜を見よう」と京都のあちこちに出かけて」という意味になる。よって、選択肢④が正解。

問五 傍線部の意味を問う問題。「こしげくは」は「忙しく」、「しくは」は「匹敵する」という意味。また、文末の「やは」は「反語の意味を表す係助詞なので、傍線部は「ただ月や花の観賞で忙しく暮らすことに匹敵することが、ほかにまたあるだろうか(いや、ない)」という意味になる。よって、①が正解。

問六 傍線部の意味を問う問題。「さらで」は「そうでなくて」という意味で、直前の「雨風はげしくなりたれば(雨風が激しくなってきたので)」を受けている。また、「だに」は「ささえ」、「名におふ」は「名前としてもっている」という意味。傍線部は「そうでなくてさ(雨風が激しくない時でさ)嵐の名前を持っていない風山に、雨までも加わって」という意味になる。よって、選択肢④が正解。

問八 傍線部の意味を問う問題。「はづかし」は「こちらが恥ずかしくなるほど相手は優れている」という意味で、「雪はづかしげなる」は「雪が恥ずかしくなるほど白い」と訳せる。よって、選択肢⑤が正解。

問九 傍線部の意味を問う問題。傍線部は「人が(私に)着せない濡れぎぬを、花のために着てしまったことだよ」という意味。この「濡れぎぬ」は無実の罪という意味と、文字通り(雨に)濡れてしまった衣服という意味の二つを掛けた掛詞になっている。よって、選択肢②が正解。

問十二 傍線部の理由を問う問題。和歌Dの直前に、「この人身まかりて後、今はかかるころぞまのやさしき友いづちにかはべらんと忍びわびて(この人が他界した後、今頃このような風流心のある友はどこにいるでしょうかとどうしようもなく悩ばれて)」とあり、和歌Dは亡き友人を偲んで詠まれた歌である。この「人」は「ともにまたさそほ濡れそほ濡れて、日くるるまで花を見あそびて帰りはべりぬ(一緒にさそほ濡れになって、日が暮れるまで花見に興じて帰りました)」とあるように、雨の中で共に花見をした友人である。そして、和歌Dは「もるともに濡れ来し雨の桜符(雨に濡れながら一緒にした花見)」を思い出して涙が流れたことで、「袖もかわかず(袖が乾かない)」なのだ。よって、選択肢①が正解。

## 国語(後期) 3/8

問五 脱文補充問題。脱文の「こうした歴史学が一九世紀西洋の産物である」「そこに安住するわけにもくまい」という部分は、⑤の直前の「歴史学者は、この(普遍性Ⅱ西洋近代)にあまりに多くを負っている」であり、そこから逃れたふりをすべきでない」という本文を言い換えた内容である。よって、選択肢⑤が正解。

問六 傍線部の内容を問う問題。本文で、「グリンジの語る歴史」には「歴史への真摯さ」を見いだすことができ、「この(経験的な歴史への真摯さ)は、「グリンジの『危険な歴史』が「ホロコースト否定論者が営む『間違った歴史』と根本的に異なる点である」と述べられていることから、「グリンジの語る歴史」は「危険な歴史」、「ホロコースト否定論者」の歴史は「間違った歴史」とされ、「危険な歴史」と対比されている。「歴史学者が理解する」「学術的」な歴史は「よい歴史」とされていることがわかる。よって、選択肢②が正解。①・③は「間違った歴史」、④・⑤は「よい歴史」の具体例であるため、それぞれ誤り。

問七 筆者の主張を問う問題。傍線部の次の文で、「こうした錯覚が生まれる理由には「歴史的真実が存在しないからではなく、歴史的真実が無尽蔵にあるから」であり、「歴史的真実」は、ただ一つの「外的な客観的存在」ではないということ述べている。筆者はこのことをふまえて、その次の段落で、「経験(的事実)」と「真実」とを結びつけるプロセスは、実証主義的な学術的歴史実践とグリンジ・カント

リーで行われている歴史実践のあいだで異なっている」が、「実際にあったこと」を問題としている点では一致しており、「グリンジの歴史実践は、近代実証主義的な経験論(empiricism)とは異なる仕方(歴史への真摯さ)を紡ぎだしている」と述べている。よって、選択肢③が正解。①は、最初の段落で「後者の語りは、歴史学者が理解するオーストラリアの植民地史とのあいだで関係をとりむすぶことができる」と述べられていることと合わない。②は「真実が曖昧なものになってしまった」が、④は「全体だが中でも特に」「妄想や空想と同じ類のものである」が、⑤は「歴史家自身の選択に依拠する主観的なものである」が、それぞれ誤り。

問八 傍線部の内容を問う問題。傍線部の「最もあてにならない所」から立ち現れる歴史」とは、「グリンジの語る歴史」をはじめとした「危険な歴史」であり、「アカデミックな歴史学」の語る「よい歴史」とは「乗りこえたい距たり」つまりギャップ」のあるものである。これら二つの視座の対話」とは、「歴史物語語り」に「歴史への真摯さ」を見いだすこと」によって、「信じていることができない」として一定の範囲で理解しようとするのである。よって、選択肢②が正解。①は「大きく異なる」が、③は客観的に分析して導き出された」が、④は「個々人の思想に適したものだけを」が、⑤は「アカデミックな歴史学の方法論にもとづいて」が、それぞれ誤り。

問五 傍線部の意味を問う問題。1 波線部の前に「たとひ宣言ありといふとも、我が歯印無くは(たとひ宣言があったとしても、わたしの歯形がなければ)」とある。つまり、国王の命令文書が届いたとしても、歯形がなければ「用ゐるべからず(採用してはならない)」という文脈になっている。よって、選択肢④が正解。2 「なほ」は「まだ」、「極めて」は「かなり」、「安からず」は「穏やかならぬ」という意味である。また「構ふ」には、「計画を練る」という意味がある。波線部以降は「継母の后」が「太子を国の境の外に追却」するためのたくらみをし、実行する文脈なので、「構ふる」を「たくらんだ」と訳すのが適当。よって、選択肢④が正解。3 波線部の次の段落で「集まりたる人」の「涙をこの器に受け集め」たところ、「眼を洗ふ」ことができるほど集まったことから、多くの人々が集まっていたことが推測できる。また、波線部の「雲はたくさんの人々が集まって雲のように見えることをたとえている。よって、選択肢②が正解。4 波線部の「この事」は、その後の「明らかなる事を得て、見る事もとのごとくならむ(眼がはつきり見えるようになって、元通りになるだろう)」ことを指している。また、「得じ」は「できまい」という意味である。よって、選択肢①が正解。

問六 本文の内容を読み取る問題。①は、第七段落の「羅漢」が「国の人(国民)」の「涙を以て眼を洗ふ(涙で太子の眼を洗う)」と、眼が「出で来て、明らかなる事を得て、もとのごとくなり(出てきて、はつきり)と見えるようになって、元通りである」という本文に合致する。②は、第六段落で「大王」が「羅漢」に対して「願はくは聖人、慈悲を以て我が子の拘拏羅太子の眼をもとのごとくに得しめ給へ(お願いしまし聖人よ、慈悲によって我が子拘拏羅太子の両眼を元にお戻しください)」と尊敬語を用いて話している内容に合致する。③は、第七段落の「大臣・百官を召して、或いは官を退け、或いは過無き免し或いは外国へ遷し、或いは命を断つ(大臣や多くの役人を呼びつけて、あるものは退官させ、あるものは無罪放免とし、あるものは外国に流し、あるものは死刑に処した)」という本文に合致する。④は「后」が第二段落で「太子を誡め給ふべし(太子に訓をお与えなさるべきだ)」と「大王」に告げ口していることや、第四段落で「たばかりて宣言を下す(奸計をめぐらせて宣言を下す)」とあること、第五段落で「大王」が「偏に継母の後の所為なりと知りて、忽ち后をつみせむと(専ら継母の後の所業であると知って、すぐに后を処罰しよう)」としていることに合致する。⑤は、「太子」が「后」に対しては親として大事にしようとする心が無かった」が本文の内容に合致しない。第五段落に「大王」が「后をつみせむと(后を処罰しよう)」したのを、「太子」が「ねんごろに制止して、その罰を申し止め給ふ(丁寧に制止して、その罰の取りやめをお申し出になる)」とある。よって、選択肢⑤が正解。